

【MedSci Forum】医療科学類の担当にあたって

「臨床検査技師長から教員に転身して思うこと」

山内 一由 (臨床医学系)

はじめまして、桑克彦先生の後任として信州大学より着任しました山内一由(やまうちかずよし)です。どうかよろしくお願ひ致します。

私は大学卒業後、是非とも臨床化学を学びたいと思い、その当時、当該領域で隆盛をきわめていた、故北村元仕先生が主宰される虎の門病院の臨床化学検査部に入職しました。奇しくも、虎の門病院の臨床化学検査部は桑先生を輩出した場でもあり、しかも、私の家内は大学の前身である筑波大学医療技術短期大学部の出身で、桑先生のご指導を仰ぎ、私と同じ部署で働いて居りました。その後、縁あって信州大学医学部附属病院の臨床検査部にお世話になることになりました。大学病院に移ってからは、これまで専門としてきた臨床化学に加え遺伝子検査の実務にあたりました。その傍ら検査の専門領域を超えた様々な研究業務に携わる機会を得て、大学病院の臨床検査技師として大変充実した日々を過ごしてきました。また、平成16年からは臨床検査技師長として検査部のマネージメントにも関わらせていただくことで、理想の臨床検査技師と臨床検査部、さらには大学病院の在り方について考える機会にも恵まれました。

私にとってつくばは初めての地であります。郷に入っては郷に従えと申しますように、私も一日も早くつくばの地に慣れ、「筑波スタンダード」

を習得していきたいと存じております。一方で、前職の信州大学における高度専門職業人を育成しようとする素晴らしい精神をこの筑波大学医療科学類の学生諸君と大学病院検査部で働く臨床検査技師の皆様に伝承し、さらには筑波大学らしい垢抜けたサイエンティフィックな人材育成の環境を築いていきたいと考えております。

医療人の育成はあまねくすべての大学と実務の場である大学病院に課せられた共通かつ最も重要な使命だと思います。言い方を変えれば、大学と大学病院の教職員が緊密に連携をはかりながら教育と研究を推し進めることによってはじめて、良質な医療人が育つのであって、双方がまったくインディペンデントであっては学生諸君に医療を職業とする素晴らしさを十分に伝えることはできないと確信しています。

前述のように私は臨床検査技師としてとても充実した時間を過ごすことができましたが、それは前の職場に臨床検査技師個々人のキャリアデザインを支援する体制が整っていたからだと言えます。具体的に申しますと、臨床検査技師の日常業務のみならず研究も指導できる臨床検査医と臨床検査技師が身近に居りこと。筑波大学の医療科学類に相当する保健学科の教員の半数は臨床検査の実務を十分積み、なお且つ立派な研究業績をもった臨床検査技師であっ

たこと。さらに検査部と保健学科の連携がきわめて密であったことなどがあげられます。

現在、医療の現場ではチーム医療の実践が強く求められていますが、真のチーム医療を実践するためには、医師と対等の能力を持ち、医師の目線で議論できるような臨床検査技師の存在が不可欠です。そういう意味では、学類教育にとどまらず、大学院教育を受けた人材を臨床の場に継続して輩出していくことも求められているのだと思います。薬学部が6年制化したことを鑑みるとなおさらです。一方、実務経験豊富な優秀な臨床検査技師を教育の場に登用していくことも検査部と医療科学類双方における継続的な人材育成には必須であります。

上述の使命は医療科学類における教育、医療科学類の教員の力量だけでは決して果たせるものではありません。繰り返しになりますが、その具現化には、臨床検査という実学を学ぶことができる場である大学病院検査部の教職員との連携を密にして、臨床検査医学者を育てる体系的なシステムを整えていくことが肝要かと存じます。

さらには、もう一つの重要な大学の使命でもあり、人材育成の重要なツールである研究にも積極的に取り組んでいかなければならないと考えています。高度な分析技術を備えた臨床検査技師は医師の臨床研究を全面的に支援し得る研究者でもあります。さらに、臨床検査技師の研究は単なる支援にとどまらず、自らがイニシアティブをとって医学研究を遂行していくことが可能ですし、先端医療を提供していくため、最新の医療技術を開発していくためには、創造的な臨床検査技師の存在が不可欠だからです。

多くの学群生や大学院生に研究に参画してもらい、創造性溢れる臨床検査医学者を育成しながら、研究的な環境にとっても恵まれたこのつくばの地で自分自身も高めていけたらと考えております。